

## 2022 年中間選挙ガイド

### I. 選挙が好きな米国

#### 選挙が途絶えない米 国政治

米国は全国的な選挙が 2 年に 1 度行われる。これほどまで選挙のインターバル期間を短く設定したのも、独裁政治を米国に持ち込まないという建国者の強い意志なのだろう。さらに予備選挙などの党内での候補者選びのプロセスが入るため、選挙サイクルは 1 年近くと長い。つまり米国政治は常に選挙状態にあると言っても過言ではない。従い選挙制度や選挙の状況、そして過去の勝敗などを把握することは、米国政治を理解するうえで不可欠となってくる。

本稿は、2022 年 11 月 8 日に予定されている連邦上下院及び知事職を含めた地方選挙について、3 部構成（上院選、下院選、地方選）のうちの第 1 部として、基本的な選挙制度と上院選の注目点を纏めていく。

#### 選挙日は11月の第1月 曜日の翌日

米国連邦政府の立法機関となる連邦議会は、下院と上院の二院制となっており、それぞれの定員、任期、特徴などは図表 1 の通りだ。下院は日本の衆議院、上院は日本の参議院に近いイメージだろう。下院は全議席が人口に応じて、日本の小選挙区のような下院選挙区（congressional district）単位<sup>1</sup>で 2 年ごとに全議席が改選されるため、下院はより現在の有権者に近い存在と位置付けられている。憲法でも下院についての規定は、上院や大統領よりも先に記され、予算の審議開始は下院からとされている他、大統領職の継承順位は、下院トップの下院議長が副大統領に次いで 2 番目と、上院の仮議長<sup>2</sup>よりも上位にある。

<sup>1</sup> ただ各州に最小でも下院議席が 1 議席割り当てられることになっており、州毎で人口密度が大きく異なる米国では、州全体が 1 つの下院選挙区になっている州も少なくない（現在はアラスカ、デラウェア、ノースダコタ、サウスダコタ、バーモント、ワイオミングの 6 州で州全体が下院選挙区）

<sup>2</sup> 上院の議長（President）は副大統領が兼任。仮議長（President Pro Tempore）は上院多数党の、最年長議員が選出されるのが慣例となっている。現在は上院議員歴 48 年目で今季限りの引退を表明している民主党のリーヒ議員（バーモント州）が務めている。ただ実質的な上院トップは仮議長ではなく、多数党院内総務（Majority Leader）と呼ばれる議員であり、現在はシューマー議員（ニューヨーク州）。

一方の上院は、任期が 6 年で 2 年毎に 1/3 の議席数が改選される。選挙単位は州全体であり、慎重な審議を行うために、下院と違い原則審議時間が制限されていない（従い、フィリバスターと呼ばれる、発言を延々と続ける議事妨害が可能。これを止めるためにはクローチャーと呼ばれる討議終結動議を 60 票以上で可決する必要がある）。また大統領が指名する政治任用といわれる政権幹部や裁判官を承認する権限を有するなど、制度上「良識の府」と位置付けられており、建国当初は州議会が上院議員を選出していた（一般投票での選出は 1917 年の憲法修正 17 条の成立以降）。

つまり 2 年に 1 度（偶数年）、下院全議席と上院の 1/3 議席を選挙が行われ、4 年に 1 度は正副大統領選（以下、大統領選）も行われるほか、正副知事職や州務、州司法長官、さらには市長や郡保安官や教育長など様々な地方選挙も合わせて行われる。<sup>3</sup>今年のように大統領選挙がない年は、「中間選挙（Midterm Election）」と呼ばれる。なお選挙日は 1845 年の大統領選選挙日法（Presidential Election Day Act）により、11 月の第 1 月曜日の次の火曜日と規定されている<sup>4</sup>。

図表 1：連邦上下院の概要

|                              | 下院                                 | 上院                                 |
|------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 定員                           | 435                                | 100                                |
| 現有議席<br>(括弧内は 2020<br>年選挙結果) | 民主党 221(222)、共和党 212(213)、<br>空席 2 | 民主党 <sup>5</sup> 50(50)、共和党 50(50) |

<sup>3</sup> ただケンタッキー、ルイジアナ、ミシシッピ、ニュージャージー、バージニアの 5 州は「オフイヤー（off-year）」と呼ばれる奇数年に正副知事選を行う。またケンタッキーを除く 4 州は州議会選挙もオフイヤーに行っている。

<sup>4</sup> 元々憲法では上下院及び正副大統領選出のための選挙人選挙の日程、方法などは各州に委ねられていた。その後 1792 年に成立した連邦法により、各州議会は、大統領選挙の選挙人を 12 月最初の水曜日までの 34 日間の何れかの日に選出しなければならないと規定。これに従い各州は 10 月末から 12 月上旬の期間で選挙人を選出していたが、通信技術の発展により早めに選挙を行った州の結果が、後に選挙を行う州の結果に影響を与えるとして、1845 年の上記法律により選挙日が統一された。尚、11 月上旬の火曜日になった背景として、収穫期が終わり厳しい冬到来の前という時期で、かつ投票所から離れた場所からでも、日曜日の教会礼拝後に出発して十分間に合う火曜日にしたと考えられている。上記は大統領選挙に関連した背景だが、各州は次第に上下院議員選挙も正副大統領選挙日に合わせるようになった。

<sup>5</sup> 無党派だが上院民主党派（The Senate Democratic Caucus）に所属するサンダース議員（バーモント州）とキング議員（メイン州）を含む。以下同様。

|                    |                            |                                                       |
|--------------------|----------------------------|-------------------------------------------------------|
| 2022 年改選議席         | 全議席                        | 民主党 14、共和党 21 <sup>6</sup>                            |
| 引退議員数 <sup>7</sup> | 民主党 31 名、共和党 20 名          | 民主党 1 名、共和党 5 名                                       |
| 任期                 | 2 年                        | 6 年                                                   |
| 州毎の議席配分            | 10 年毎の国勢調査により配分見直し         | 各州 2 名                                                |
| 被選挙権               | 25 歳以上、米国市民 7 年以上          | 30 歳以上、米国市民 9 年以上                                     |
| 審議制限               | あり                         | 原則審議時間の制限なし。審議切り上げにはクローチャー（討議終結）動議を 60 票以上で可決する必要がある。 |
| 大統領の<br>継承順位       | 下院議長は 2 番目                 | 上院仮議長は 3 番目                                           |
| 特徴的な<br>役割         | 予算審議は下院から開始<br>弾劾決議の権限を有する | 下院の弾劾決議の審議、条約締結、政治任<br>官・裁判官の指名承認の権限を有す               |

(ワシントン事務所作成)

## II. 信任投票から代理戦争へ

### 与党に分が悪い中間選挙

過去の選挙結果を見れば、中間選挙は与党（大統領が所属する政党）に分が悪い。1934 年から 2018 年の 22 回の中間選挙での結果を平均すると、与党は下院で 28 議席、上院で 4 議席減らしている。同期間で与党が上下院共に議席を増やせたのは 1934 年（フランクリン・F・ルーズベルト大統領）と 2002 年（ジョージ・W・ブッシュ大統領）の 2 回だけだ。与党の信任投票となりやすい他、大統領が一期目の場合は期待に対し成果に乏しいという背景がある。また大統領選が同時に行われる場合と比べ、有権者の中間選挙に対する熱気は薄く投票率が低い傾向にある。このなかで、比較的野党支持者の方が投票意欲が高い（支持よりも不支持のほうが行動を起こしやすい）という事も考えられる。

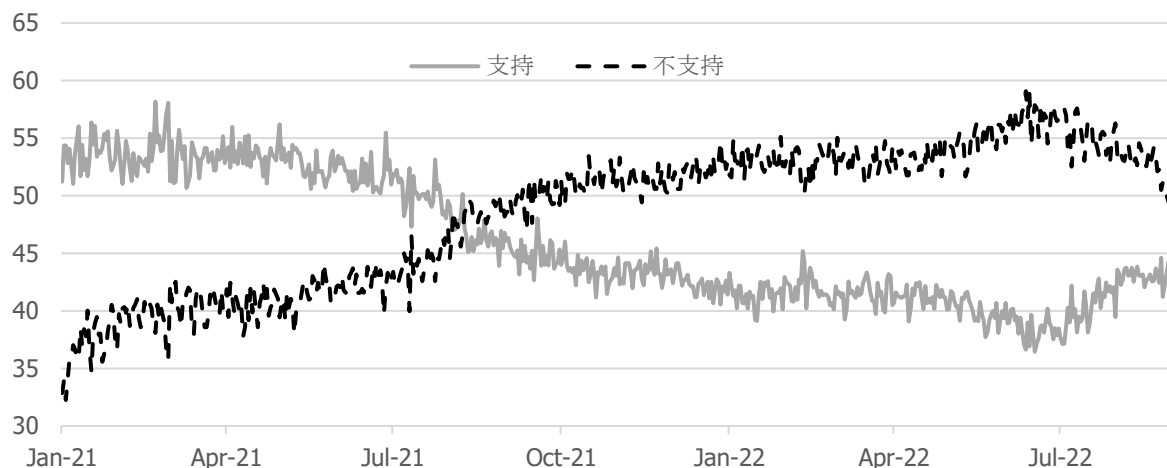
<sup>6</sup> 今年の上院選挙は通常改選の 34 議席に加え、任期途中で引退を表明した共和党のインホフ議員（オクラホマ州）の後任を選出する特別選挙も行われる。

<sup>7</sup> 他公職への出馬も含む。

バイデン大統領支持率  
の変化

こうした歴史的傾向に加え、バイデン政権は 2021 年 9 月のアフガニスタン撤退での失態や、与党内の対立により大型看板法案を通せなかったことで支持率が低下。さらに 2022 年に入り歴史的な高インフレも重なったことで、バイデン大統領の支持率は 6 月以降 30% 台まで低下（図表 2）。民主党の旗色は非常に悪くなった。ところがその後、6 月に保守派判事が多数を占める連邦最高裁判所が、中絶の権利を連邦レベルで認めてきた 1973 年の判決（Roe v Wade 判決）を覆したことで<sup>8</sup>、中絶の権利を支持する民主党への支持が回復<sup>9</sup>。さらに 7 月に半導体産業への補助金や先進技術開発の支援を盛り込んだ CHIPS and Science 法、8 月には気候変動対策や増税策を盛り込んだ Inflation Reduction 法が成立した事で、ある程度の実績もアピールできるようになった。これらと並行して、エネルギー価格低下により、ガソリン価格などが一時ピークより 25% 超引き下がったことで（22 年 6 月 14 日：\$5.016/ガロン→2022 年 9 月 19 日：\$3.677/ガロン）<sup>10</sup>、バイデン大統領の支持率も 40% 台半ばまでに回復。選挙の争点にバイデン政権の評価以外の要素も入り込む余地が出てきた。

図表 2：バイデン大統領の支持率、不支持率推移



出所:FiveThirtyEightより丸紅ワシントン事務所作成(データはVoter、Pollster rating B+以上に限定)

<sup>8</sup> Roe v Wade 判決を覆すきっかけとなったのが、ミシシッピ州の中絶制限法を巡って行われた裁判 Dobbs v Jackson Women's Health Organization であることから、今回の最高裁の判断は Dobbs 判決とも言われる。

<sup>9</sup> Politico 紙調査によると、ノースカロライナ州では最高裁判決前の新規有権者登録者は共和党が僅かに上回っていたが、判決後は民主党への有権登録者が上回っている。

<sup>10</sup> 米国自動車協会（AAA）調べ。全国平均、レギュラーガソリン価格）

現職大統領の信任投票から代理戦争へ

そこで出てきたのが、トランプ前大統領が機密書類をフロリダ州に所有する別荘兼プライベートクラブ（Mar-a-Lago）に保管し、政府からの再三の返還の要求に応えていなかったという疑惑による連邦捜査局（FBI）による家宅搜索だ。折からの 1 月 6 日連邦議事堂襲撃事件の公聴会で、トランプ前大統領の責任が取り沙汰されていたところに、さらに国家安全保障を揺るがしかねない疑惑が持ち上がった。また同前大統領が支持する上院選、知事選候補が共和党予備選で指名を獲得していくなか、これら候補者の「質」（後述）に対し、共和党幹部内からも訝る声が強くなってきた。バイデン大統領の支持率が回復するなかで、トランプ前大統領を巡る法的疑惑や「トランプ派」の質に対する注目が高まるにつれ、今回の中間選挙が、バイデン大統領の信任だけではなく、トランプ前大統領の信任も争点となる、いわば代理戦争（プロキシ・ファイト）の様相が強まってきた。トランプ前大統領支持派にとっても、FBI が家宅搜索を強行したことは「司法の政治化」だ、として議会でも多数派に返り咲き議会の調査権を駆使して、今回の司法省の動きを糾弾する構えだ。

### III. 最も注目される上院選

上院は接戦、下院は依然共和党か

民主党が強い勢いで巻き返しを図っているが、それでも下院は僅差で共和党が多数派を取る一方、上院はかなりの接戦というのが、執筆時点の大方の予想だ<sup>11</sup>。慎重な RealClearPolitics（RCP）は、非改選議席を含め民 46：共 47 として、残りの 7 州：アリゾナ（AZ）、ジョージア（GA）、ニューハンプシャー（NH）、ノースカロライナ（NC）、ネバダ（NV）、ペンシルバニア（PA）、ウィスコンシン（WI）は拮抗（toss-up）しているとして、予想はつけていない。それが Politico になる

<sup>11</sup> 主要な選挙予想サイトとしては以下がある。本レポートで引用する分析は全て 22 年 9 月 23～30 日の間に閲覧したデータに基づく。

| サイト名/リンク                              | 特徴                                         |
|---------------------------------------|--------------------------------------------|
| <a href="#">RealClearPolitics</a>     | 各世論調査を総合して掲載。予想には大きく踏み込んでいない               |
| <a href="#">FiveThirtyEight</a>       | 各世論調査を統合すると共に、独自の予想を打ち出している                |
| <a href="#">Cook Political Report</a> | 選挙分析専門家の Charlie Cook 氏が設立。主に予測を公表         |
| <a href="#">Sabato's Crystal Ball</a> | バージニア大学選挙センターの Larry Sabato 教授が主催。予想を頻繁に更新 |
| <a href="#">270toWIN</a>              | 上記予想や他の予想を総合                               |
| <a href="#">Politico</a>              | 独自の分析、予想を公表                                |

上院と下院の情勢が異なる背景については、次号の下院選挙に関するレポートで詳述したい。

**トランプ前大統領の支持候補は全員予備選勝利？**

と民 48：共 48 で拮抗している激戦州は、GA、NV、PA、WI の 4 州、Cook Political Report (CPR) では、民 49：共 48 で、激戦州は GA、NV、WI の 3 州となっている。Sabato's Crystal Ball (SCB) や 270toWin ではさらに民 49：共 49 で、激戦州は GA、NV の 2 州に絞られる。ここまでれば、最早どちらに転んでもおかしくない状況であり、50 対 50 となった場合、副大統領を有する政権与党が多数党となるため、民主党がやや有利とも言える。FiveThirtyEight (FTE) は 68% の確率で民主党が上院で多数党を維持すると予測している。

上院選は下院選と違い州全域が選挙区となる。下院の選挙区は州知事職や州議会で多数派を握る政党が自党に有利になるような区割りにする傾向<sup>12</sup>があるので、極端な右派もしくは左派候補でも当選する可能性は高い。上院選でも保守的なレッドステート（共和党の色である赤から。主に内陸や南部州）と、プログレッシブなブルーステート（民主党の色である青から。主に西部や北東部）では、そうした傾向はあるが、激戦州がある中世部や AZ や GA のように、近年レッドステートからややブルーステートに寄りつつある州（後述）にいては、如何に無党派や中道派の支持を取り付けるかが重要となってくる。

こうした背景にも関わらず、「良識の府」に送り出す代表として、過激なトランプ前大統領が支持する候補 22 名が全員共和党の予備選挙を勝ち抜いたというのは驚きかもしれない。ただ正確に言えば、22 名のうち 11 名は現職で、そのなかでも実質的に予備選がないルイジアナ州のジョン・ケネディ議員を除けば、全て 2 期以上の議員、即ちトランプ前大統領誕生前から議員を務めており、トランプ前大統領の支持がなくても再選が濃厚な現職だ。また残り 11 名のうち、3 名は予備選終了後、または予備選の 1 回目投票終了、決選投票前に支持を表明<sup>13</sup>、2 名は予備選直前に支持を表明しており<sup>14</sup>、半ば勝ち馬にのった形だ。それでも、RCP が激戦州としている 7 州の共和党候補全員に対しトランプ前大統領が支持を表明しており、同前大統領の影響力を全く無視することはできず、また逆にこれら激戦州の

<sup>12</sup> ゲリマンダーと呼ばれる傾向で、政治の分極化の一因ともなっている。詳細は次号レポートで述べたい。

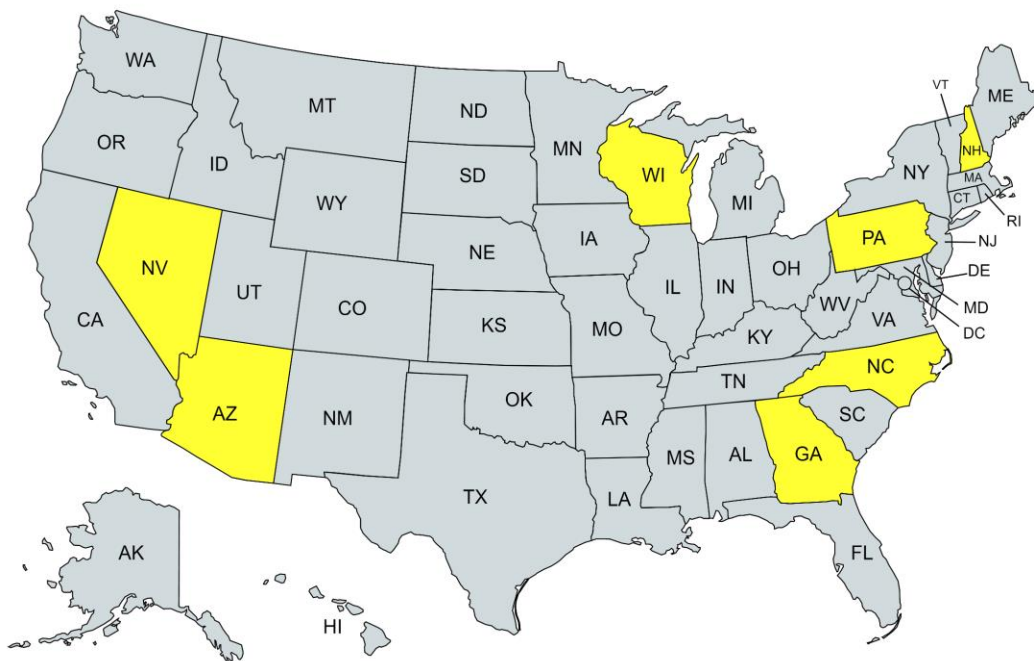
<sup>13</sup> アラバマ州のケイティ・ブリット、オクラホマ州のマークウェン・マリン、ミズーリ州のエリック・シュミットの 3 名。

<sup>14</sup> オハイオ州の JD バンス、コネチカット州のレオラ・レビーの 2 名。



結果次第で、同前大統領の影響が今後どのようなになるかも左右する。[報道](#)によれば、共和党の上院トップであるミッチ・マコーネル少数党院内総務（ケンタッキー州）は、8 月中旬に地元の商工会イベントで「恐らく下院を奪還できる可能性は上院よりずっと大きいだろう。上院選は違う。州単位であり、候補者の資質（quality）が結果に大きく影響する」と語った模様。共和党内でトランプ前大統領が支持する候補者の資質を疑問視する見方は決して小さくはない。ただ予備選の結果は、共和党有権者は、党幹部と一定程度違う見方を持っていることを示している。これが一般選挙ではどう反映されるのか。そういう意味でもこれら激戦州の上院選挙は注目だ。本レポートでは RCP が激戦州としている以下 7 州（図表 3）に注目してみたい。ただ選挙結果の予想よりも、各州や候補者の特徴を中心に分析していく。

図表 3：激戦 7 州



mapchart.net にてワシントン事務所作成

#### IV. 激戦州の状況

##### 紫に染まるアリゾナ州

前述の通りアリゾナ州はレッドステートからブルーステートに変わりつつある「パープルステート」に位置づけられる。過去

の大統領選では、2020 年に得票率 0.3%の僅差でバイデン氏が同州で勝利するまでは、過去 64 年間同州で勝利した大統領候補は 1996 年のクリントン氏のみだった。ケネディもオバマも同州では勝利していない。上院でも 2018 年に、ウェストバージニア州のジョー・マンチン上院議員と並んで民主党では保守派であるキルステン・シネマ上院議員が当選するまで、24 年間 2 議席とも共和党が独占していた。そして 2020 年に元宇宙飛行士のマーク・ケリー氏が特別選挙<sup>15</sup>で当選したことで、58 年ぶりにアリゾナ州選出の上院議員が 2 議席とも民主党となった<sup>16</sup>。同州が「紫化」している背景として、住居費が高騰し規制が強化される隣のカリフォルニア州から、プログレッシブな有権者が流入したり、ヒスパニック系住民が増加していることが考えられる。

今年の選挙で改選となる現職のケリー氏は民主党の唯一の候補者だったため、予備選挙は形式的なものだった。他方の共和党では、実業家のブレイク・マスターズ氏と、同じく実業家のジム・ラモン、マーク・ブロンヴィッチ州司法長官らが立候補。マスターズ氏がトランプ前大統領の支持の他に、ペイパル創業者でマスターズ氏と仲の深いピーター・ティール氏の支援を受け勝利した。

一般選挙では現職のケリー議員がややリードしているとみられる。直近で行われた保守系調査会社の世論調査でも僅かながらケリー議員がリード、RCP のまとめでも 6pt リードしている。ケリー議員は上院議員就任から 2 年弱しか経っておらず、目立った実績は特にないのものの、パープルステートの有権者を意識して、穏健派議員としての地位を固めつつある。一方のマスターズ氏は、中絶については予想外に柔軟な態度を仄めかしているものの<sup>17</sup>、2020 年の大統領選挙は不正があったとの主張は続けており、また今年の中間選挙でも自身が敗戦した場合、結果

<sup>15</sup> 2016 年に再選した同州選出のジョン・マケイン上院議員が 2018 年に死去したことを受け、州法に則り州知事が共和党の後任を指名。2020 年に特別選挙が行われケリー氏が当選し、故マケイン議員の 2023 年までの任期を引き継いでいる。

<sup>16</sup> [270toWIN のアリゾナ州プロフィール](#)

<sup>17</sup> マスターズ氏は当初公式キャンペーン HP で、「私は 100%プロライフ（pro-life、生命を大事にする＝中絶反対）。生まれていない子供も人だと認知し、殺されないような法律、理想としては憲法修正を支持する。」などと主張していたが、Dobbs 判決以降、有権者の多くが中絶の権利保護を求め始めたところで、同氏は「妊娠 3 期目（米国では妊娠期を 3 分割し、3 期目は 29-40 週目）などに限って禁止する法案を支持する」と態度を[軟化させた](#)。



を受け入れないとも主張している<sup>18</sup>。こうした過激な思想は、前述の通り共和党のマコーネル院内総務など主流派が懸念する候補者の質であり、<sup>19</sup>「紫」化しているアリゾナ州では受け入れられにくくなっている。予断はできないものの、ケリー議員の再選が徐々に濃厚になりつつある。

図表 4：アリゾナ州上院選候補者

| 州       | アリゾナ州 (AZ)                                                                        |                                                                                                                     |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 政党(*現職) | 民主党*                                                                              | 共和党                                                                                                                 |
| 名前      | マーク・ケリー                                                                           | ブレイク・マスターズ                                                                                                          |
| (英文)    | Mark Edward Kelly                                                                 | Blake Masters                                                                                                       |
| 写真      |  | <br>photo taken by Gage Skidmore |
| 生年      | 1964                                                                              | 1986                                                                                                                |
| 経歴      | 1986-2011 米国海軍(大佐)<br>1996-2011 NASA宇宙飛行士<br>2021- 連邦上院議員                         | 2012 法務関連会社を立ち上げ<br>2014 ピーター・ティールに関する著書公表<br>2014-2022 ティール氏の投資会社幹部                                                |
| 政策      | 民主党内では穏健派。中絶権利の保護や銃規制は支持するも、移民の規制強化を主張。                                           | リバタリアン。当初中絶の連邦レベルでの一律禁止を主張していたが、最高裁判決により中絶権利の保護を求める声が強まって以降、公式HPで中絶禁止の文言を軟化させている。2020年大統領選結果の懐疑派。                   |
| その他     | 妻は同州選出の下院議員で2011年に銃撃されるが一命を取り留める。双子のスコット・ケリーも海軍パイロット、宇宙飛行士。                       | 陰謀論を支持する傾向もあり、共和党の主力政治献金団体が運動資金を取り下げる事態にも。                                                                          |

出所：各種報道、各陣営 HP などからワシントン事務所作成、写真は出所を明示しない限り全てパブリックドメインより。

### 最接戦が繰り広げられるもう1つのパープルステート、ジョージア州

主要選挙予想のいずれでも激戦州となっているのがジョージア州だ。同州は典型的な南部州のパターンとして、1960 年代まで民主党の地盤だったが、それ以降保守的な共和党の地盤へとシフト。大統領選では 2020 年にバイデン大統領が 0.2% の僅差で勝利するまで、20 年近く共和党候補が勝利しており、オバマ

<sup>18</sup> ニューヨークタイムズ紙の独自調査。マスターズ氏以外に、共和党上院選候補では JD パンス氏（オハイオ州）、テッド・バッド氏（ノースカロライナ州）なども同様の主張を行っている。

<sup>19</sup> マコーネル院内総務の影響力が大きい共和党の選挙資金団体（PAC）が、マスターズ氏を支持するテレビコマーシャルの放映予定をキャンセルするなど、共和党主流派が懸念の候補者を見限っていると思われる様子も見られる。

前大統領も同州で勝ったことはない。上院選でも 2002 年から 2 議席とも共和党が独占、2020 年の特別選挙<sup>20</sup>で民主党のラファエル・ワーノック氏が勝利するまでの約 20 年間、知事職と合わせて共和党の強力な地盤であった。

ただ近年はジョージ・フロイド事件<sup>21</sup>などがきっかけに全米で広がった「Black Lives Matter」運動をきっかけに、アフリカ系米国人などマイノリティに対する人種差別や、投票などにおける差別的待遇などの問題への意識が高まり、アフリカ系米国人の比率が高く<sup>22</sup>、またプログレッシブな支持が集まりやすいアトランタなどの大都市を抱えるジョージア州は、他の南部州に先駆けてパープルステートにシフトしつつある。

そうした状況で民主党のワーノック議員は再選をかけて予備選は大差で勝利。共和党ではアメリカンフットボールの人気選手だったハーシャル・ウォーカー氏が知名度を活かし、得票率 68%で予備選に勝利した。ウォーカー氏は 2016 年の大統領選からトランプ前大統領を支持し、ホワイトハウスでのスポーツ担当協議員にも指名されており、出馬表明後トランプ前大統領の支持を取り付けている。

ウォーカー氏はアメリカンフットボールの有名選手として知名度は高いものの、発言やプライベートでは問題点が多い。自己の経歴を詐称した後に、平然と詐称した過去を否定したり、自らの事業規模を実態以上に大きく報告しているという批判が多発。上院選出馬後には、アフリカ系米国人家庭におけるシングルマザーの問題を指摘していたにも関わらず、前妻との間の 1 人息子以外に、3 人の隠し子（本人は隠蔽を否定しているが）がいることが発覚。また前妻からは家庭内暴力で訴訟されており、また前妻やその家族に脅迫を行ったことで、一時銃所持を禁止されている。ウォーカー氏もまた共和党主流派が質を懸念する候補者の一人であることは間違いないだろう。

<sup>20</sup> 共和党のアイザクソン議員が 2019 年末、任期途中で引退表明したため、行われた特別選挙。ワーノック氏が決選投票の末、2pt 差で共和党候補に勝利。アイザクソン議員の 2023 年 1 月 3 日までの任期を継承した。

<sup>21</sup> ミネソタ州ミネアポリスで 2020 年 5 月に発生した、白人警官が黒人青年を圧迫死させた事件。

<sup>22</sup> [2020 年国勢調査](#)では、ジョージア州のアフリカ系米国人の割合は 31%と、コロンビア特別区（41%）、ミシシッピ州（37%）に次いで高い。

しかし RCP の世論調査まとめではワーノック議員が僅かに 0.2%pt リードしている過ぎない。ここまで問題発言、行動が多い共和党候補者に対し、リードを広げられないのか。それはウォーカー氏が米国の国技ともいえるアメリカンフットボールの名選手、かつ地元との結びつきが強い大学競技において大活躍した選手という事に加え、トランプ前大統領がそうだったように、どれほど問題発言、行動が指摘されようとも、「この候補者は我々の味方だ」という印象を支持者が持てば、支持基盤（ベース）を固められるのが、今の米国政治、特に南部の方では強いのではないだろうか。ウォーカー氏は政治経験が全くないが、ワーノック議員も上院議員に選出されてまだ 2 年弱と政治経験は浅く、所謂伝統的な政治基盤はどちらも小さい。そこで直感的な「味方と敵」、という分類に陥りやすいのかもしれない。結局は 2020 年に同州で大統領選、上院選共に民主党が勝ったといえども、その差は僅かであり、その勢力図が 2022 年現在も続いていると考えるべきなのだろう。2020 年がそうだったように、今回もジョージア州の選挙結果が、今後 2 年間の米国政治を左右する可能性は大きい。

図表 5：ジョージア州上院選候補者

| 州       | ジョージア州 (GA)                                                                         |                                                                                                               |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 政党(*現職) | 民主党*                                                                                | 共和党                                                                                                           |
| 名前      | ラファエル・ワーノック                                                                         | ハーシェル・ウォーカー                                                                                                   |
| (英文)    | Raphael Warnock                                                                     | Herschel Walker                                                                                               |
| 写真      |  |                           |
| 生年      | 1969                                                                                | 1962                                                                                                          |
| 経歴      | バプティスト教会牧師<br>2013年のオバマ大統領就任式で祝福を行う<br>2014年以降、健康保険拡大を求めて州議会<br>で座込を行い一時拘束される       | 1980年代 大学フットボールで活躍。在学<br>中からプロアスリートとして活躍。その後<br>ダラスカウボーイなどのNFLチームに所属。<br>一方、ファストフードのフランチャイズ経<br>営や、食肉ビジネスにも従事 |
| 政策      | キリスト教牧師の経歴だが、中絶支持派<br>移民政策では改革の必要性を主張するも、<br>人道的な対策を重要視。                            | 2016、2020年の大統領選ともトランプ前大<br>統領を支持。2020年には全国共和党大会で<br>応援演説を行っている。2018年に同前大統<br>領からホワイトハウス特別職員に指名され<br>る。        |
| その他     | 幼少よりキング牧師を尊敬。キューバの革<br>命政権にシンパ的。                                                    | 自身の経歴や事業を誇張したり、ブライ<br>ベートでの虚言やスキャンダル（隠し子）が<br>多い。中絶には強硬に反対。                                                   |

## 北東部の激戦州、ニュー ハンプシャー州

激戦州といえは時によって、共和党と民主党の支持が入れ替わりやすいスイングステートが集まる中西部や、パープルステートの南部がイメージされやすいが、北東部にも激戦州はある。それがニューハンプシャー州だ。他の北東部州がプログレッシブな州となっているのに比べ、同州は伝統的に穏健な州という立ち位置だ。その背景としては、同州が厳格な宗教の制約を嫌いマサチューセッツ植民地から逃れてきた人々が定住した場所であり、州のモットーである「Live Free or Die」が象徴するように、個人の自由を重んじるというリバタリアンの思考があるからかもしれない。

ただ 2000 年以降はニューハンプシャーも民主党寄りにシフトし、大統領選においては 2004 年から民主党が勝ち続けており、2020 年もバイデン大統領が 7%pt 超の差で勝利している。2 議席のみの下院議員も 2013 年以降、ほとんど民主党が独占してきた。上院議員の 2 議席は、1979 年以降から 2009 年までの 30 年間、共和党が実質独占してきたが、今回改選となるマギー・ハッサン議員が 2016 年に当選して以降、民主党が独占している。ニューハンプシャー州もまたパープルステートの 1 州と言える。

州知事を 2 期務めた後、ハッサン議員は上院選に出馬し、現職の共和党議員を破ったが、その差は僅か 0.14%pt 差（約 1,000 票差）であった。つまり、ハッサン議員の上院議員としての地盤は最初から盤石ではなく、今回上院議員として初めて再選をかけた選挙であるため、民主党の改選議員のなかでは脆弱な議席の 1 つと見られている。一方、共和党候補のドン・ボルドック氏は、右派候補として予備選で草の根運動を展開し、穏健派候補の州上院議員を破った。アフガニスタンに 10 度の従軍経験がある退役軍人の経歴などが、保守派層の支持を得ているのだろう。予備選終了までは、トランプ前大統領が訴える 2020 年大統領選挙の不正にも賛同する、いわゆる「選挙否定派」（Election Denier）で、トランプ前大統領は当初支持を表明しなかったが、予備選終了後にボルドック氏支持を表明した。しかしその後、ボルドック氏は「バイデン氏は正統な大統領」だ

と、態度を一変させている<sup>23</sup>。アリゾナのマスターズ氏同様に、一般選挙で無党派の支持を獲得するための戦術なのだろう。

ただ RCP 世論調査ではハッサン議員が 9.3%pt リードと、現職議員と実績を伴う中道派としての強み、そしてバイデン大統領支持率の回復という追い風もあって、再選の可能性が強そうだ。

図表 6：ニューハンプシャー州上院選候補者

| 州       | ニューハンプシャー州 (NH)                                                                    |                                                                                                |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 政党(*現職) | 民主党*                                                                               | 共和党                                                                                            |
| 名前      | マギー・ハッサン                                                                           | ドン・ボルドック                                                                                       |
| (英文)    | Maggie Hassan                                                                      | Donald C. Bolduc                                                                               |
| 写真      |  |            |
| 生年      | 1958                                                                               | 1962                                                                                           |
| 経歴      | 企業弁護士などを経て<br>2004-2010 州上院議員当選<br>2013-2017 州知事<br>2017- 現職                       | 1981-2017 米陸軍（最終階級は准将）<br>アフガンには10度の従軍経験                                                       |
| 政策      | 銃規制は支持するも移民政策など全体的には中道派。バイデン大統領の最低賃金引き上げには反対。                                      | 右派候補として中絶に強く反対。予備選では2020年の大統領選はトランプが勝利したと公言し、同様の旨を表明した退役軍人317名の書簡にも署名するも、その後「バイデンは正統な大統領」とも発言。 |
| その他     |                                                                                    | 2020年にも上院選に出馬するも、予備選でトランプが支持する候補に負ける。2022年予備選では、TV広告を使わず草の根運動で勝利。勝利後にトランプが支持を表明                |

出所：各種報道、各陣営 HP などからワシントン事務所作成

## 紫化するのか？ノースカロライナ州

ノースカロライナ州も南部州として、1960 年代以降は共和党の支持基盤となっていた。大統領選では 1968 年以降、1974 年のジョンソンと 2008 年のオバマを除いて、全て共和党候補が

<sup>23</sup> FTE 調べによれば、今回の選挙での共和党候補者 552 名のうち、半数近い 263 名が完全な選挙否定派もしくは懐疑派に属する。ボルドック氏はバイデン大統領の正統性を認めたため、今は留保付き受入（Accepted with reservation）という認定。本レポートで取り上げる激戦州 7 州の共和党候補者なかでは、ボルドック氏の他に NC のバッド氏も留保付き受入、また GA のウォーカー氏、PA のオズ氏は懐疑派（Raised question）となっている。それ以外の 3 名は選挙否定派と認定されている。



勝利している。2020 年も 1.3%pt と僅差であったが、トランプ前大統領が同州では勝利した。ただ大統領選と同時期に行われる知事選では、大統領選で勝利した候補とは違う政党に属する候補者が勝利することが多々ある。過去 15 回の大統領選、知事選のうち、勝者の政党が異なったケースは 8 回にものぼる。上院、下院選挙でも、全体的には共和党議席が安定的に多数を占めているものの、決して圧倒的というわけではない。同州は共和党が強い支持基盤を持つ「ディープ・ステート」では全くなく、ジョージア州のようにやや紫化しつつあるスイングステートと言えるだろう。

そのスイングステート選出の上院議員を 3 期務めてきた共和党のリチャード・バー議員は、前回の改選選挙前から 3 期での引退を表明していた。従い今回のノースカロライナの上院選挙は現職が出馬しないオープン選挙となる。

民主党はシェリー・ビズリー前州最高裁首席判事が、事実上単独候補として指名を獲得。弁護士出身で黒人女性のビズリー氏は、人種間の差別是正や低所得者向け保険制度の拡充、また教育負担の低減などを公約に掲げている。Dobbs 判決以降は、中絶権利を保護する候補者として、世論調査での支持率がやや上がり始めた。

対する共和党は、連邦下院のなかで親トランプ派と位置付けられるテッド・バッド下院議員が、トランプ前大統領の支持をとりつけ、予備選で指名を獲得した。下院ではフリーダムコーカスに所属し、自ら銃販売店を営んでいるほど、保守色が強い。

ノースカロライナは他のパープルステートほど紫化されておらず、また現職が共和党であり、かつ政治経験という点ではバッド議員が有利であることなどから、現時点での RCP 世論調査は 1.6%pt でバッド議員がリードしている。しかし 6 月の Dobbs 判決以降、ビズリー候補がリードする世論調査も出始めている。しかも黒人女性という多様化を象徴する議員が、特にノースカロライナ州で生まれるという意義は決して小さくなく、今後民主党内での支持も強くなる可能性がある。ノースカロライナ州で議席を奪うことができれば、それは民主党にとっては金星で、上院で議席を増やすことにつながるだろう。



図表 7: ノースカロライナ州上院選候補

| 州       | ノースカロライナ州 (NC)                                                                                                                        |                                                                                                    |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 政党(*現職) | 民主党                                                                                                                                   | 共和党                                                                                                |
| 名前      | シェリー・ビーズリー                                                                                                                            | テッド・バッド                                                                                            |
| (英文)    | Cheri Beasley                                                                                                                         | Tedd Budd                                                                                          |
| 写真      |                                                      |                 |
| 生年      | 1966                                                                                                                                  | 1971                                                                                               |
| 経歴      | 公設弁護士などを経て<br>1999-2008 州地区裁判所判事<br>2008-2012 州高等裁判所知事<br>2012-2020 州最高裁判所判事、2019-<br>2020は主席判事<br>2020年に主席判事の再選を目指すも破れ、<br>民間弁護士事務所に | 2017-連邦下院議員                                                                                        |
| 政策      | 低所得者向け保険拡充や教育費低減、最低賃金の引き上げ、中小企業、地方農家への支援を優先政策として掲げる。中絶権利の保護を支持。                                                                       | 下院フレーダムコーカスに所属。2016年選挙で早くからトランプ支持を表明、2020年大統領選挙の開票時に、結果を否定する決議を支持。連邦レベルで中絶を禁止する法案を下院で提出、ACAの撤廃も支持。 |
| その他     |                                                                                                                                       | 銃販売店を経営                                                                                            |

出所：各種報道、各陣営 HP などからワシントン事務所作成

## もう1つの最激戦州、ネバダ州

ジョージア州と並んで今回最激戦州とされているのがネバダ州だ。同州は保守的傾向が強い内陸に位置するも、西隣にカリフォルニアという最大のプログレッシブ州を持つ地理の影響からか、典型的なスイングステートである。大統領選では、全米で勝利しなかった候補が同州で勝利したケースは、1976 年のフォードと 2016 年のクリントンのみで、それ以外は与野党交代の趨勢を正確になぞっている。上院議席では民主党トップの故ハリー・レイド元院内総務を選出していた一方で、共和党も議席を確保し続け、下院、知事職も民主、共和が入り混じっている。

そのネバダ州から初の女性ヒスパニック上院議員となったのが、現職で民主党のキャサリン・コルテス・マスト議員だ。レイド元院内総務から後継者として支持を受け出馬し、2%差で下院議員だった共和党候補に辛勝した。前回選挙を僅差で勝利、今回初めての再選をかけた選挙という点では、ニューハン

プシャー州のハッサン議員と同じ状況だが、コルテス・マスト議員の対立候補は、ボルドック氏とは違い、政治経験があり、かつ州司法長官の後任人物となったアダム・ラクサール前州司法長官だ。

ラクサール氏は国務省、上院議員事務所、海軍などでの勤務経歴を持ち、州司法長官を一期務めている。2020 年に知事選に出馬するも落選。その際にトランプ前大統領と共に州内での不正投票を訴えたことで、同前大統領と近くなり、2021 年夏には同前大統領の支持を取り付けている。いわゆる 2020 年選挙否定派で極右候補の分類されるも、政治家一族出身であることと、知名度が高いことから、現職のコルテス・マスト議員との接戦が予想されている。RCP 世論調査では、ラクサール氏が 1.7%pt のリードとなっている。共和党にとって、今年の上院選で民主党から議席を奪える可能性がある数少ない州の 1 つである。

図表 8：ネバダ州上院選候補者

| 州       | ネバダ州 (NV)                                                                           |                                                                                                              |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 政党(*現職) | 民主党*                                                                                | 共和党                                                                                                          |
| 名前      | キャサリン・コルテス・マスト                                                                      | アダム・ラクサール                                                                                                    |
| (英文)    | Catherine Cortez Masto                                                              | Adam Paul Laxalt                                                                                             |
| 写真      |  |                          |
| 生年      | 1964                                                                                | 1978                                                                                                         |
| 経歴      | 民間弁護士、検察官、州知事首席補佐官などを経て<br>2007-2015 州司法長官<br>2017- 現職                              | ジョン・ボルトン国務次官（当時）のスタッフや上院議員スタッフ、民間弁護士、海軍法務スタッフを務めた後、<br>2015 州司法長官<br>2020 知事選に出馬するも落選                        |
| 政策      | 中絶権利の保護、フィリバスター改革を支持するなど、中道～プログレッシブのスタンス                                            | 同性婚やLGBTの権利保護に反対。州司法長官時代には連邦環境保護庁の規制に対する反対運動を展開。2020年知事選落選後、トランプ前大統領と共に、州内で不正投票が行われたと主張。上院選で同前大統領の支持を取り付けている |
| その他     | レイド元院内総務が引退時にコルテス・マスト氏を後継者として支持                                                     | 父、祖父ともに上院議員。                                                                                                 |

## 激戦州の代表格、ペンシルバニア州

代表的な激戦州として中西部の何れかの州が毎回注目されるが、今年の上院選ではペンシルバニア州とウィスコンシン州の 2 州が挙げられる。ペンシルバニア州は現職で共和党のパット・トゥミ議員が引退を表明したため、オープン選挙となっている。ペンシルバニア州はスイングステートの代表格とも言われるが、近年は民主党寄りになりつつある。1988 年以降、大統領選において同州で勝利したのは 2016 年のトランプ氏のみだ。

民主党はジョーン・フェッターマン州副知事が、予備選投票直前に心臓発作に見舞われながらも予備選を勝ち抜いた。フェッターマン氏は、以前は製鉄で栄えたが現在は過疎化したブラッドックという地方の市長を務めたあと、上院選に出馬するも予備選で敗退。その後、副知事選で当選している。地方の市長を長く務めた経歴などから、有権者に近い存在として支持を集めるも、プログレッシブな政策がスイングステートの中道派をどこまで取り込めるか、また健康不安をどこまで払拭できるかが課題となっている。

他方の共和党候補、メフメト・オズ氏は心臓外科医で、その後 TV 番組で一躍お茶の間の有名人となったミリオネア<sup>24</sup>だ。ただ一方で、科学的根拠が薄い薬や治療法、またはダイエット法などを促進することで多くの批判も集めている。トランプ前大統領はオズ氏の番組に出演したことがあり、その後オズ氏は健康促進のポジションとして政権入り。トランプ前大統領はオズ氏の支持を表明している。オズ氏の政策自体は伝統的な共和党に近い内容だが、医師として訝しい治療法の促進や、トランプ前大統領に近いことで、右派候補として位置付けられている。バイデン大統領の経済政策をなじった動画<sup>25</sup>は、スーパーマーケットの名前を間違えたり、サラダを上品な名称で言ってみたりと<sup>25</sup>、逆に一般市民とはかけ離れた印象を与える結果となった。

RCP 世論調査ではフェッターマン候補が 4.1%pt のリードとなっており、同州で民主党が議席を取り返す可能性は高いとみら

<sup>24</sup> 報道によれば、オズ氏の資産は 1~4 億ドルと見積もられている。

<sup>25</sup> Redner's Warehouse というスーパー名を Wegner's と言い間違え、サラダを上品な言い方であるフランス語の「Crudités」と呼んだ。

れているが、最近になって[全米商工会](#)がオズ氏への支持を表明するなど、予断はまだできない。また大きなリスクとしてはフェッターマン氏の健康不安もあるだろう。

図表 9：ペンシルバニア州上院選候補者

| 州          | ペンシルバニア州 (PA)                                                                                 |                                                                                                                                                          |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 政党(*現職)    | 民主党                                                                                           | 共和党                                                                                                                                                      |
| 名前<br>(英文) | ジョン・フェッターマン<br>John Fetterman                                                                 | メフメト・オズ<br>Mehmet Oz                                                                                                                                     |
| 写真         |              |                                                                        |
| 生年         | 1969                                                                                          | 1960                                                                                                                                                     |
| 経歴         | 政府のボランティア促進機関「アメリコープス」に勤務中、パートタイムとしてブラッドック市の市長を務める。<br>2016 上院選に出馬するも予備選で敗退<br>2019- 州副知事（現職） | 1986年から心臓外科医として医療に従事。<br>2001年にコロンビア大学教授に就任<br>2000年頃から健康TV番組などに出演。後に「Dr. Oz Show」が始まり、健康解説などが反響を呼ぶ。2016年にはトランプ前大統領も同番組に出演。2018年にはホワイトハウスの健康促進ポストに指名された。 |
| 政策         | マリファナ合法化や最低賃金引上げなど、プログレッシブな政策を推進                                                              | 中絶禁止、銃所有の権利を支持するなど、伝統的な共和党に沿った政策。                                                                                                                        |
| その他        | 州副知事に立候補時はサンダース上院議員が支持                                                                        | 父親も心臓外科医で、トルコからの移民一世。オズ氏も一時期トルコで兵役に従事し、トルコ国籍を維持                                                                                                          |

## 共和党現職が狙われる ウィスコンシン州

中西部のもう 1 つの激戦州はウィスコンシン州だ。同州は激戦州 7 州のうち、唯一共和党現職が再出馬する中、接戦となっている。つまり、民主党が現職共和党上院議員を破る機会がある唯一の州だろう。過去の投票結果はペンシルバニア州同様に大統領選ではやや民主党寄りと言えるかもしれない。上院では現職のロン・ジョンソン議員が 2 期連続で務めているも、もう 1 議席は民主党が確保している。

ジョンソン議員はトランプ前大統領に忠誠的な上院議員として、コロナワクチンに関する陰謀論や 2020 年大統領選の否定論を強く主張してきた。あまりにも露骨な陰謀論的言動により

支持率が低下したことで、今年の共和党上院議員では最も再選が危ういと看做されている。

一方の民主党候補、マンデラ・バーンズ副州知事は 35 歳と若いながらも、州下院議員、州副知事と政治経験は豊富にあり、また社会活動などを通じ、有権者に寄り添う姿勢が支持を集め、現職のジョンソン議員に肉薄している。ただプログレッシブな一面がスイングステートの有権者にどこまで受入れられるかは予断ができない。RCP 世論調査ではジョンソン議員が +2.3%と、夏場にバーンズ候補にリードを許していた状況から逆転しつつある。

図表 10：ウィスコンシン州上院選候補者

| 州       | ウィスコンシン州 (WI)                                                                        |                                                                                     |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 政党(*現職) | 民主党                                                                                  | 共和党*                                                                                |
| 名前      | マンデラ・バーンズ                                                                            | ロン・ジョンソン                                                                            |
| (英文)    | Jesse Mandela Barnes                                                                 | Ron Johnson                                                                         |
| 写真      |    |  |
| 生年      | 1986                                                                                 | 1955                                                                                |
| 経歴      | 社会活動や市長事務所に勤務した後<br>2013-2017 州下院議員<br>2016年に州上院議員選に出馬するも予備選で現職に敗退<br>2019- 州副知事(現職) | 長年プラスチック関連のファミリービジネスを経営<br>2010年に上院議員に初当選、現在2期目。2015年からは上院国土安全保障委員長を務める。            |
| 政策      | 中絶権利保護法制定のためにフィリバスター廃止、グリーンニューディール支持など、プログレッシブな主張を掲げる。                               | 当選時からティーパーティー運動を支持するなど共和党右派的存在。銃規制やコロナ関連の活動規制などにも強く反対。トランプ前大統領の忠実な上院議員と位置付けられている。   |
| その他     |                                                                                      |                                                                                     |

もう5週間前、まだ5週間前

いよいよ選挙直前に迫ってきたが、直前まで何が起こるか分からないのが、近年の米国選挙の特徴だろう。些細なスキャンダルや発言でも、インターネット上ですぐさまに広がり、有権者の考えを変えてしまう。また足元の経済の状況も、インフレーションがピークを迎えたのか、また景気後退に近付いているの



か流動的な状況であり、有権者は敏感になっている。今後 5 週間で形勢が変わる可能性はまだあるだろう。そうであっても、上院選の結果を左右するのは、本レポートでとりあげた 7 州にどれかになることは間違いなさそうだ。これらの州では候補者によりディベートが 10 月<sup>26</sup>に予定されている。こうしたイベントのなかでの候補者の発言がメディアなどで取り上げられる事で、また有権者の投票行動が影響を受けていく。最後まで目が離せない。

以上／阿部

本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、丸紅米国会社ワシントン事務所（以下、当事務所）はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。

本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するもので、当事務所は何らの責任を負うものではありません。

本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。

本資料に掲載している個々の文章、写真、イラストなど(以下「情報」といいます)は、当事務所の著作物であり、日本の著作権法及びベルヌ条約などの国際条約により、著作権の保護を受けています。個人の私的使用および引用など、著作権法により認められている場合を除き、本資料に掲載している情報を、著作権者に無断で、複製、頒布、改変、翻訳、翻案、公衆送信、送信可能化などすることは著作権法違反となります。

<sup>26</sup> 各州でのディベート日程は以下の通り

| 月日           | 州        |
|--------------|----------|
| 10/6         | アリゾナ     |
| 10/7         | ノースカロライナ |
| 10/7, 10/13  | ウィスコンシン  |
| 10/10, 10/17 | オハイオ     |
| 10/14        | ジョージア    |